

## 便潜血分析装置 FOBIT WAKO (II) の導入にあたっての検討

○藤代誠 高松友子 安片恭子 石野彰 早田篤子  
(ちば県民保健予防財団)

【目的】便潜血分析装置 FOBIT WAKO (II) の導入にあたり、装置の性能評価を行うことを目的に基礎的検討を行った。

【方法および結果】①同時再現性：市販のコントロール試薬である CONL (低濃度) 及び CONH (高濃度) を用いた測定により、変動係数 (以下、CV%) は、CONL が 0.69~1.05%、CONH が 0.47~0.72 であった。②日差再現性：CONL 及び CONH を用い、5 日間測定した。CV% は、CONL が 1.00~1.42%、CONH が 1.20~1.65 であった。③最小検出感度：市販のキャリブレーター試薬を用いた測定結果から算出された検出限界は、5.8ng/mL であった。④直線性：市販のキャリブレーターを用い直線性について検討した結果、 $1.6 \times 10^3$ ng/mL まで直線性が確保されていた。⑤相関：当財団で大腸がん検診を受診した 173 名の便検体を使用し、従来機種 (FOBIT WAKO) と新機種 (FOBIT WAKO (II)) 3 台の相関性の確認をした。相関係数は、0.990 以上であった。⑥キャリアオーバー (CO)：ヘモグロビン (Hb) 溶液  $1 \times 10^7$ ng/mL を用いて、プローブおよびキュベットの CO について検討した。キュベットについては、CO を認めなかった。プローブでは、Hb 溶液  $3 \times 10^5$ ng/mL 以上の濃度の Hb 溶液を用いた時にカットオフ値の 100ng/mL を超えた。⑦ブローン試験：Hb 濃度  $1 \times 10^6$ ng/mL まで確認したが、測定値の偽陰性化は認めなかった。⑩共存物質の影響：便に混入する可能性がまれに考えられるバリウムおよびグリセリンを添加した場合にも測定値に影響は認めなかった。

【考察】便潜血分析装置 FOBIT WAKO (II) の基礎的検討を行った結果、おおむね良好な結果が得られた。このことにより、本機導入は、日常検査の迅速性、正確性の向上に有用であると考えられる。

連絡先：043-246-8658 (内線 7006)